Pesticide Science Society of Japan　日本農薬学会

PSSJ NEWS LETTER

http://pssj2.jp

2020年　第3号　令和2年8月20日

CONTENTS

■ 活動報告・各種会議議事録
■ 第45回大会報告
■ 会員動静
■ 学会関連カレンダー
■ 学会主催会議等の詳細
■ 残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018のご案内
■ 【予告】農薬科学研究奨励金
■ 次期役員候補者の推薦受付について
■ 令和3年・4年度日本農薬学会役員選挙について
■ 日本農薬学会第46回大会のご案内
■ 日本農薬学会第46回大会における広告，展示およびランチョンセミナー募集のご案内

令和元年度　第5回常任評議員会議事録

日　時：メール会議：令和2年4月8日(水)～15日(水)
　　Web会議：令和2年4月15日(水) 14:00～15:00
方　法：メール会議，Web会議
出席者：出席者　16名
議　事：

I.　令和元年度第4回常任評議員会議事録の確認，メール審議議事録の確認
- メール審議1：4/18北大で開催予定の橋床先生を追悼・顕彰する会を学会HPとお知らせメールで配信すること，総会終了後に紹介することを承認した（後日延期が決定）.
- メール審議2：45回大会中止を評議員会へ付議することを承認した.
- メール審議3：45回大会は講演要旨集を配布し，みなし開催とすること，徴収した参加費は準備と中止に伴う経費に充当すること，懇親会費は全額返金することを評議員会へ付議することを承認した.
- メール審議4：農工大教員公募について学会HPに掲載することを承認した.

II.　経過報告および議案

1. 財務関係
   - 令和2年度収支予算（令和2年1月1日から3月15日まで）について報告があった.
   - 内部監査，外部監査について報告があった．業務に関する内部監査の指摘事項について次回の監査までに改善策を検討することとした.
   - オンラインクレジット決済契約について検討され，GMOイプシロン社と契約を結ぶことが承認された.
2. 編集委員会
   - 第46回編集委員会（メール会議）について報告（JPSの冊子体の廃止．農薬誌は冊子体を残すが原則モノクロ．希望者のカラー印刷は実費負担）があった.
3. 学術・技術支援委員会
   - 学術・技術支援委員会活動について報告があった.
4. 農薬研究奨励金について
   - 令和3年度の農薬科学研究奨励金について例年通り交付することが提案され，次回常任評議員会において予算執行状況を考慮しつつ検討することとした.
5. 役員・評議員選挙について
   - 第24期役員選挙日程が確認された.
   - 会長より選挙管理委員会委員長と委員3名の指名があり承認された.
6. 2019–2020年度学術小集会委員長・委員の変更
   - 農薬生物活性研究会委員長の中倉紀彦氏への変更が承認され，農薬環境科学研究会，農薬残留分析研究会，農薬生物活性研究会の委員の変更が確認された.
7. 技術士育成推進委員会について報告があった.
8. 入退会の報告があり，18名の入会が承認された.
9. 次年度，次々年度の常任評議員会の日程が確認された.

令和2年度第1回選挙管理委員会議事録

日　時：令和2年6月4日(木) 13:00～13:40
方　法：Web会議
出席者：出席者　6名（含常任評議員総務担当2名）

議　事：

1. 選挙管理委員の紹介があった．
2. 役員選挙に係わる「会則」，「細則」，「規定」および「内規」等を確認した．
   ・日本農薬学会選挙規定第10条には会長・副会長・監事の得票数が過半数に満たない場合についての言及がないため，常任評議委員会で改定を検討することが承認された．
   ・役員選挙結果の取り扱いについての改定を常任評議委員会で検討することが承認された．
3. 役員選挙日程を確認した．
4. 前回の選挙に関する資料を確認した．
5. その他．
   ・8月号ニュースレターに掲載予定の「次期役員候補者の推薦受付について」の記事を確認した．
   ・前回選挙時の会員からの意見について検討した．

令和2年度　第1回学術・技術支援委員会議事録

日　時：メール会議：令和2年5月11日(月)～25日(月)
Web会議：令和2年6月6日(土)（出席14名，欠席2名）
議　事：

学術・技術支援委員会が取り組んでいる以下の各活動に関する今年度の方針について検討した．

1. 「農薬について知ろう」Webサイト
2. 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」書籍出版
3. 講師派遣
4. 農薬残留分析セミナー
5. 学会ホームページ運営
6. その他

新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み，実技実習を伴う農薬残留分析セミナーの開催を中止する事とし，今年度はWebや学会ホームページを利用した活動に注力する方針とした．

令和2年度　学会賞受賞者選考委員会 第1回委員会議事録

日　時：令和2年5月22日(金)～6月1日(土)
方　法：メール会議
議事および報告：

1. 選考に関する内規の確認

推薦者情報の取り扱いについて，暫定的に不開示とし，要請があった場合は審査員と同様に6年後に開示の対応とした．

2. 令和2年度選考スケジュール

令和3年度学会賞の推薦依頼を開始し，例年通りのスケジュールで進めることを確認した．農学会日本農学進歩賞の推薦について審査中であること，日本学術振興会「育志賞」については推薦がなかったことの報告があった．

令和2年度　将来計画委員会　第1回委員会議事録

日　時：令和2年5月8日(金)～27日(水)
方　法：メール会議
議事および報告：

1. これまでの将来計画委員会活動の検証

委員から，現状の会員減少，財政問題への対策として，大会での英語講演や海外学会との連携など活動の国際化，評議員の若手・女性枠の新設，財政状況の会員への周知と会費値上げなどについての意見が出された．今後議論を重ね，11月に答申をとりまとめることを確認した．

第46回評議員会議事録

日　時：令和2年4月17日(金)～22日(水)
方　法：メール会議
出席者：夏目会長，大山副会長，塩月副会長，日野副会長，内田監事，佐藤監事，評議員63名　（合計69名）
評議員会成立の確認
出席した評議員（63名）は定足数（34名，評議員総数101名の1/3以上）を満たしており，評議員会が成立することを確認した．
議　事

1. 令和元年度会務報告
   ・第45回通常総会資料に基づく，総務・編集・渉外・学会賞選考の各項目の報告に対する異議はなく，総会への付議が承認された．
2. 令和元年度収支決算報告
   ・第45回通常総会資料に基づく収支決算の報告について，内田監事・佐藤監事による監査報告が行われ，総会への付議が承認された．
3. 令和2年度事業計画案および会計収支予算案
   ・事業計画案および収支予算案の総会への付議が承認された．
4. 会則の改定案
   ・会則第14条および会則第37条の改定案の総会への付議が承認された．
5. 規定の改定案
   ・役員選出規定および国際学術交流基金海外渡航助成金による国際会議等派遣研究者応募規定の改定案が承認された．
6. 終身会員推薦候補者案
   ・終身会員について会長より推薦された，吉田茂男氏，

実光穣氏，岡田至氏，堀正大氏の4名が承認された．

7. 第46回大会案
   ・第46回大会を2021年3月8日～10日に東京農工大学（東京都府中市）において開催することが承認された．
8. 第45回大会の中止とみなし開催決定の経緯
   ・第45回大会の中止とみなし開催決定の経緯について説明があり，第45回大会の中止とみなし開催決定が承認された．
9. その他
   ・大会開催決定等のタイムスケジュールの明確化と公表の検討依頼があった．
   ・第45回大会での報告事項を第46回大会において報告することについて検討依頼があった．
   ・会費の見直しについて検討依頼があった．

第45回通常総会議事録

日　時：令和2年4月24日(金)～30日(木)
方　法：メール会議
議　事：

1. 令和元年度事業報告および決算報告
   ・総務・編集・渉外・学会賞選考の各項目，規定の改定についての報告，次いで，収支決算についての報告があり，内田監事，佐藤監事の事業ならびに収支決算の内容が的確であったとの監査結果が報告された．メールによる質疑を受け付けたのち，令和元年度事業および決算が承認された．
2. 令和2年度事業計画および収支予算について
   ・事業計画案および収支予算案がメールによる質疑を受け付けたのち原案の通り承認された．
3. 会則の改定について
   ・会則第14条ならびに会則第37条の改定案が原案の通り承認された．
4. 終身会員の推薦について
   ・終身会員として岡田至 氏，実光穣 氏，堀正大 氏，吉田茂男 氏が評議員会において承認されたことが報告された．
5. 第46回大会について
   ・第46回大会を令和3年3月8日～10日に東京農工大学（東京都府中市）において開催することが評議員会において承認されたことが報告された．

資料

I　会務報告

1. 総務関係報告

1）会員異動（平成31.1.1 ～令和1.12.31）

	平成30年12月31日現在	令和元年12月31日現在			増　減（△減）
		国　内	国　外	計	
名誉会員	20	20	0	20	0
終身会員	58	56	0	56	△2
正 会 員	974	943	12	955	△19[a]
学生会員	55	68	0	68	13[b]
維持会員（口数）	35（69口）	35（69口）	0	35（69口）	0（0口）
団体会員	80	78	0	78	△2
購読会員	25	4	16	20	△5

[a] 入会者：91名，退会者：66名，会費未納者：44名
[b] 入会者：32名，退会者：10名，会費未納者：9名

2）会誌の発行

発行および頒布部数（平成31.1.1～令和1.12.31）

誌-巻-号	農薬誌-44-1	JPS-44-1, 2	農薬誌-44-2	JPS-44–3, 4
発行部数	1370	1370	1350	1330
会員頒布	1215	1215	1215	1215
一般購読	20	20	20	20
寄　　贈	23	23	23	23
広告・PR	10	10	10	10
事 務 用	2	2	2	2
保 存 用	5	5	5	5
計	1275	1275	1275	1275
残存部数	95	95	75	55

3）日本農薬学会第44回大会

（1）　第44回大会：平成31年3月11日(月）に，名城大学天白キャンパスにおいて，総会，学会賞授賞式，受賞講演（奨励賞2題，業績賞（研究）2題，業績賞（技術）2題），特別講演（2題）が行われた．翌3月12日(火)～13日（水）には名城大学天白キャンパスにおいて，一般講演（84題），シンポジウム（2件），ランチョンセミナー（8件）が行われた．参加者総数は421名であった．

（2）　第44回通常総会：平成30年度会務報告，会計報告，会計監査報告，名誉会員の承認，終身会員および顧問の推薦の報告が行われ，平成30年度事業報告および決算，平成31年度事業計画および収支予算（案）が承認され，日本農薬学会大会第45回大会（令和2年，大阪府堺市，大阪府立大学）の開催が報告された．また，平成31年度日本農薬学会賞（奨励賞，業績賞，論文賞）の授賞式が行われた．（H31.3.11）

4）役員会の開催

（1）　第46回評議員会：令和元年度会務報告，会計報告が行われ，令和2年度事業計画および収支予算（案），

会則改定を総会に付議することが承認され，規定の改定，日本農薬学会大会第46回大会（令和3年，東京都府中市，東京農工大学）の開催および終身会員が承認された．（R2.3.7）

（2） 常任評議員会：5回（R1.5.11, 9.14, 12.7, R2.2.1, 3.7）

5）専門委員会など

（1） 第46回編集委員会：R2.3.7に開催．学会誌への投稿状況，新企画等の報告．

（2） 常任編集委員会：H31.4.27, R1.7.27, R2.1.11に開催．和文誌，英文誌の掲載内容，論文賞の推薦，JPSのオープンアクセス化等について検討．

（3） 日本農薬学会賞受賞者選考委員会：R1.6.14および9.21に開催．メール会議5回．日本農薬学会賞，功労賞，日本農学進歩賞の選考について検討．

（4） 財務委員会

1. 第1回，第2回，第4回常任評議員会開催日及びR1.8.22に開催．メール会議5回．国際会議等派遣研究者への渡航費補助，国際会議等派遣研究者への渡航費補助規程と内規の改定，学術小集会活動経費補助申請，令和元年度決算・令和2年度予算について検討．
2. 国際会議の渡航費補助申請の審査．
3. 外部監査（R1.8.5, R2.2.5）の実施に対応．

（5） 第45回大会組織委員会：R1.10.8, R2.1.21, 1.30, 2.6, 2.17に開催．

（6） 将来計画委員会：R1.5.10に開催．過去に提出された答申の検証を行い，現時点での問題として，学会員数の減少と財務状況が挙げられ，会員へのサービスやイベントの提案，会費の額などについて検討．

（7） 学術・技術支援委員会：R1.5.25, 12.21に開催．「農薬について知ろう」Webサイトの運営・保守管理，書籍「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ　改訂4版」補遺資料の作成，残留農薬分析セミナー・講師派遣事業等について検討．

（8） 農薬科学研究奨励金交付者審査会議：一次審査（R1.12.11～R2.1.17メール会議），二次審査（R2.2.1）．

（9） 学術小集会委員長と常任評議員との意見交換：R1.9.14に開催．活動報告・予定，会員増に向けた取り組み等について意見交換．

（10） 三学会長懇談会：R1.12.5に開催．法人化，日本農学賞等について協議．

（11） 日本植物防疫協会と三学会との協議会：R1.12.5に開催．日本植物防疫協会による支援等について協議．

6）技術士育成推進委員会（5学会）

委員会を開催（R2.2.10）．平成30年度技術士二次試験（農業部門・植物保護）の合格者は11名であり，合格者総数が133名になったとの報告があった．

2. 編集関係報告

1）「日本農薬学会誌」掲載原稿数および頁数

巻　号	掲載原稿数										頁　数
	投稿論文	解説	受賞論文	実験技術講座	ミニレビュー	シンポジア	読み物シリーズ	ショートレビュー	その他	計	
44-1		1	6		6	10	2	3	3[a]	31	108
44-2	1	3	8	1	16		2	4	6[b]	41	156
合　計	1	4	14	1	22	10	4	7	9	72	264[c]

a: 特別寄稿1編，書評1編，追悼1編．
b: 書評2編，慶事1編，追悼3編．
c: この他に大会案内（26頁）会則等を掲載（16頁）．

2）「Journal of Pesticide Science」掲載原稿数および頁数

巻　号	掲載原稿数								頁　数
	総説	報文	短報	速報	技術資料	受賞論文	その他	計	
44-1		9				1	1[a]	11	87
44-2		6	1					7	52（+6）[b]
44-3	1	3	2	1	2	2		11	74
44-4	1	5			1	3	3[c]	13	92（+6）[b]
合　計	2	23	3	1	3	6	4	42	305（+12）

a: Erratum.　b: Instructions for authors.
c: Contents of Volume 42（JPS及び農薬誌）, Keyword Index, Author Index.

3）論文賞

候補1件を，学会賞受賞者選考委員会に推薦した．

4）その他

（1） 受付論文数（2019年）：和文2編，英文93編（掲載否52編）
（2） 学会誌インパクトファクター（2018年）：1.415
（3） 電子ジャーナル掲載論文へのアクセス状況（2019年）：月平均約8501件のダウンロード（2018年：6134件）
（4） オープンジャーナル誌としてDOAJに採択．

3．渉外・企画関係報告

1）セミナーの開催

（1） 残留農薬分析セミナー2019の開催：明治薬科大学清瀬キャンパス（東京都清瀬市，R1.9.19～20），大阪府立環境農林水産総合研究所（大阪府羽曳野市，R1.11.14～15）．

2）農薬科学研究奨励金

農薬科学研究に対する研究奨励金を令和元年度は以下の3件の研究に対して交付した．

（1） 鎗田　孝 氏（茨城大学）：本当に正確な残留農薬分析法の実現～同位体希釈分析における食品成分起因の同位体分別の機構解明
（2） 古田　賢次郎 氏（農業・食品産業技術総合研究機構）：害虫選択的な幼若ホルモン拮抗阻害剤の合成探索とその作用機構の解析
（3） 伴野　有彩 氏（大阪府立環境農林水産総合研究所）：安定同位体標識化合物を用いたサロゲート法のLC-MS/MS農薬多成分一斉分析法への適用にむけての検討

3）学術小集会

（1） 農薬残留分析研究会（第42回）：コンパルホール（大分市）において開催．「農薬残留分析に係る国際標準試験法の実際」をテーマとしてシンポジウム講演3題，特別講演1題，ポスター発表25題，企業セミナー4題の発表が行われた．参加者は207名であった．（R1.10.31～11.1）
（2） 農薬製剤・施用法研究会（第39回）：つくば国際会議場（つくば市）において開催．特別講演5題，ポスター12題，技術研究7題，フォーラム1題の発表が行われた．参加者は374名であった．（R1.10.17～18）
（3） 農薬環境科学研究会（第37回）：倉敷せとうち児島ホテル（岡山県倉敷市）において開催．基調講演1題，特別講演2題，招待講演5題，ポスター12題の発表が行われた．参加者は88名であった．（R1.11.21～22）
（4） 農薬生物活性研究会（第36回）：東京農業大学（東京都世田谷区）において開催．「改正農薬取締法および最近話題の新農薬の生物活性について」をテーマとして特別講演1題，招待講演6題の発表が行われた．参加者は116名であった．（H31.4.25）
（5） 農薬デザイン研究会（第34回）：東京コンファレンスセンター品川（東京都港区）において開催．招待講演4題，ランチョンセミナー1題，ポスター発表25題の発表が行われた．参加者は145名であった．（R1.10.8）
（6） 農薬レギュラトリーサイエンス研究会（第27回）：北とぴあ（東京都北区）において開催．「農取締法改正のこれまでの展開」をテーマとして6題の講演が行われた．参加者は175名であった．（R1.12.4）
（7） 農薬バイオサイエンス研究会（第17回）：名城大学（愛知県名古屋市）において第44回大会との共催で「形を見る，形から学ぶ」をテーマとして4題の講演が行われた．参加者は200名であった．（H31.3.13）

4）学術小集会以外の研究会等

（1） 第10回日本昆虫科学連合・日本学術会議共催シンポジウム：東京都文京区（R1.8.3）
（2） 第34回報農会シンポジウム（協賛）：東京都北区（R1.9.25）
（3） 農学国際教育研究センター第18回オープンフォーラム：愛知県名古屋市（R1.10.1）
（4） 2019年度日本農学会シンポジウム：東京都文京区（R1.10.5）
（5） 令和元年度日本学術会議公開シンポジウム（日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会，植物保護科学連合 主催）：東京都文京区（R1.11.30）
（6） 第4回 日本生物防除協議会シンポジウム（後援）：東京都墨田区（R2.2.21）

5）国際会議等派遣研究者への渡航費補助

14thIUPAC　5月，ベルギー，ゲント
　岡澤　敦司 氏（大阪府立大学）
　甲斐　建次 氏（大阪府立大学）
　橋床　泰之 氏（北海道大学）
　横井　大洋 氏（京都大学）

International Society for Molecular Plant-Microbe Interactions XVII I Congress　7月，イギリス，グラスゴー
　草島　美幸 氏（東京大学）
　仲下　英雄 氏（福井県立大学）

THE 23RD INTERNATIONAL CONFERENCE ON PLANT GROWTH SUBSTANCES　6月，フランス，パリ
　伊藤　晋作 氏（東京農業大学）

20th World Congress of the International Society on Toxinology　9月，アルゼンチン，ブエノスアイレス
　義本　裕介 氏（京都大学）

XIX International Plant Protection Congress（IPPC）11月，インド，ハイデラバード
伊藤　虹児 氏（農業・食品産業技術総合研究機構）

6）その他

4. 日本農薬学会賞受賞者選考委員会報告

1）奨励賞，業績賞（研究，技術）

評議員ならびに学術小集会委員長より推薦された奨励賞2課題，業績賞（研究）2課題，業績賞（技術）1課題について選考を行った結果，次の5課題を各賞の候補と決定した．

【奨励賞】
安東大介 氏（住友化学株式会社）
「沈水有根植物フサモにおける農薬の代謝挙動に関する研究」
元木　裕 氏（農林水産消費安全技術センター）
「農薬の土壌吸着特性と植物移行性に関する研究」

【業績賞（研究）】
片木敏行 氏（住友化学株式会社）
「農薬の環境動態・代謝における理論有機化学的研究」
清田洋正 氏（岡山大学）
「農薬創製に資する生物活性天然物に関する合成化学的研究」

【業績賞（技術）】
古谷　敬 氏，菊武和彦 氏，長谷部元宏 氏，長井寛明 氏，織田雅次 氏（日本農薬株式会社）
「殺菌剤「ピラジフルミド」の開発」

2）論文賞

編集委員会より推薦された論文について審査を行い，候補を決定した．

「**Action mechanism of bleaching herbicide cyclopyrimorate, a novel homogentisate solanesyltransferase inhibitor**」
Mamiko Shino, Takahiro Hamada, Yoshio Shigematsu, Kangetsu Hirase, and Shinichi Banba（Agrochemicals Research Center, Mitsui Chemicals Agro, Inc., Mobara, Chiba 297–0017, Japan), Vol. 43, No. 4, pp. 233–239（2018）

3）功労賞

会長より推薦された以下の3氏を功労賞の候補と決定した．
故上路雅子 氏
近内誠登 氏
西村勁一郎 氏

5. 令和2年度日本農薬学会奨励賞，業績賞，論文賞および功労賞受賞者の決定

学会賞受賞者選考委員会で選考された日本農薬学会奨励賞，業績賞，論文賞および功労賞各候補について，評議員の投票により授賞が決定した．

6. 日本農学進歩賞の決定

令和元年10月3日，（公財）農学会の2019年度（第18回）日本農学進歩賞に，日本農薬学会から推薦した甲斐建次氏の受賞が決定した．

7. その他

1）規定の改定

役員選出規定（平成30年5月24日改定）の改定（日本農薬学会細則第17条に従って，常任評議員会の議を経て，後日評議員会にて承認）

改定前	改定後
（平成30年5月24日改定） 日本農薬学会役員選出規定 9. 会員による投票はWeb投票システムにより行う．投票は直接無記名とし，会長，副会長はそれぞれ単記，監事は2名，評議員は70名以内の連記とする． 10. 評議員が会長，副会長，監事と重複して選出された場合，および会長指名の副会長または顧問に就任した場合は，評議員の資格を失う．この場合は次点者を繰り上げる．	（令和元年9月14日改定） 日本農薬学会役員選出規定 9. 会員による投票はWeb投票システムにより行う．投票は直接無記名とし，会長，副会長はそれぞれ単記，監事は2名，評議員は70名以内の連記とする． 10. 会長，副会長，監事は投票総数の過半数をもって信任とし，評議員は得票数の多い順に70名を選出する． 11. 評議員が会長，副会長，監事と重複して選出された場合，および会長指名の副会長または顧問に就任した場合は，評議員の資格を失う．この場合は次点者を繰り上げる．

国際学術交流基金海外渡航助成金による国際会議等派遣研究者応募規定（平成28年9月20日改定）の改定（日本農薬学会細則第17条に従って，常任評議員会の議を経て，後日評議員会にて承認）

改定前	改定後
（平成28年9月20日改定） 国際学術交流基金海外渡航助成金による国際会議等派遣研究者応募規定 3. 助成額 助成は地域別に定めた金額を超えないものとし，同一会議への申請が複数ある時は，原則として同一金額とする． A地域［欧州，南米，北米］ 30 万円 B地域［東南アジア・オセアニア・ハワイ］ 15 万円 C地域［中国・台湾・韓国］ 10 万円 但し，その他の地域・国については，都度決定する 5. 派遣研究者の義務 2）派遣研究者は学会等からの帰国後，所属機関の旅費精算書等のコピーおよび渡航に利用した航空機の搭乗券のコピーを提出する．	（令和元年10月8日改定） 国際学術交流基金海外渡航助成金による国際会議等派遣研究者応募規定 3. 助成額 助成上限額は地域別に定めた金額を超えないものとする． A地域［南米・アフリカ］ 25 万円 B地域［欧米］ 20 万円 C地域［オセアニア・ハワイ］ 15 万円 D地域［南・東南アジア］ 10 万円 E地域［東アジア］ 5 万円 但し，その他の地域・国については，その都度決定する 5. 派遣研究者の義務 2）派遣研究者は学会等からの帰国後，宿泊費と航空運賃の領収書および航空機搭乗券の原本を提出する．原本提出後，助成上限額を超えない範囲の実費を支給する．

II　会計報告

収支計算書

平成31年 1月 1日から令和元年12月31日まで

（単位:円）

科　　目	予算額	決算額	差 異
Ⅰ　事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会費収入	16,160,000	15,863,492	296,508
正会員会費収入	8,000,000	7,791,352	208,648
学生会員会費収入	130,000	142,000	△ 12,000
海外会員会費収入	80,000	58,250	21,750
団体会員会費収入	800,000	779,890	20,110
購読会員会費収入	250,000	192,000	58,000
維持会員会費収入	6,900,000	6,900,000	0
会報刊行収入	1,220,000	1,533,550	△ 313,550
頒布収入	60,000	89,500	△ 29,500
広告料収入	60,000	30,000	30,000
著者負担金収入	1,100,000	1,414,050	△ 314,050
事業収入	21,002,000	26,559,531	△ 5,557,531
大会運営収入	5,801,000	8,833,274	△ 3,032,274
学術小集会運営収入	14,081,000	16,402,017	△ 2,321,017
学術・技術支援委員会収入	1,120,000	1,324,240	△ 204,240
雑収入	512,000	469,483	42,517
預金利息収入	2,000	2,917	△ 917
雑収入	510,000	466,566	43,434
事業活動収入計	38,894,000	44,426,056	△ 5,532,056
2. 事業活動支出			
会報刊行費支出	9,810,000	11,277,406	△ 1,467,406
旅費交通費支出	300,000	265,510	34,490
通信運搬費支出	10,000	9,662	338
消耗品費支出	50,000	108	49,892
印刷製本費支出	7,000,000	8,831,513	△ 1,831,513
編集費支出	1,800,000	1,548,014	251,986
学会誌送料支出	650,000	622,599	27,401
総会・大会費支出	5,801,000	4,738,085	1,062,915
学術・技術支援	1,120,000	1,150,665	△ 30,665
学術小集会費支出	14,955,956	15,768,380	△ 812,424
ＨＰ管理費支出	900,000	868,650	31,350
学会賞関係費支出	400,000	401,855	△ 1,855
学術交流費支出	800,000	764,700	35,300
国際学術交流費支出	2,270,000	2,432,070	△ 162,070
農薬科学研究奨励金支出	1,500,000	1,500,000	0
男女共同参画支援費	150,000	0	150,000
事業運営費支出	2,000,000	2,151,910	△ 151,910
会議費支出	500,000	620,410	△ 120,410
旅費交通費支出	1,500,000	1,531,500	△ 31,500
管理費支出	4,312,000	4,322,139	△ 10,139
旅費交通費支出	90,000	75,820	14,180
通信運搬費支出	300,000	259,968	40,032
消耗品費支出	150,000	86,551	63,449
事務管理費支出	3,262,000	3,262,000	0
印刷費支出	50,000	48,600	1,400
外部監査管理費	160,000	151,874	8,126
雑支出	300,000	437,326	△ 137,326
事業活動支出計	44,018,956	45,375,860	△ 1,356,904
事業活動収支差額	△ 5,124,956	△ 949,804	△ 4,175,152
Ⅱ　投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
特定資産取崩収入	5,000,000	3,000,000	2,000,000
積立調整基金 取崩収入	1,500,000	0	1,500,000
国際学術交流基金 取崩収入	2,000,000	1,500,000	500,000
寄付基金 取崩収入	1,500,000	1,500,000	0
投資活動収入計	5,000,000	3,000,000	2,000,000
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	5,000,000	3,000,000	2,000,000
当期収支差額	△ 124,956	2,050,196	△ 2,175,152
前期繰越収支差額	1,994,007	1,994,007	0
次期繰越収支差額	1,869,051	4,044,203	△ 2,175,152

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲について

資金の範囲には，現金預金，未収金，仮払金，未払金，前受金及び預り金を含めている．
なお，前期末及び当期末残高は，2に記載するとおりである．

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産および負債の内訳

（単位：円）

科　目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	6,487,909	8,366,603
未 収 金	516,600	666,000
仮 払 金	850,500	850,500
合　計	7,855,009	9,883,103
未 払 金	110,400	131,900
前 受 金	5,750,602	5,707,000
預 り 金	0	0
合　計	5,861,002	5,838,900
次期繰越収支差額	1,994,007	4,044,203

貸借対照表

令和元年12月31日現在

（単位:円）

科　目	当年度	前年度	増 減
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	8,366,603	6,487,909	1,878,694
未 収 金	666,000	516,600	149,400
仮 払 金	850,500	850,500	0
流動資産合計	9,883,103	7,855,009	2,028,094
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
積 立 調 整 基 金	12,224,379	12,224,379	0
国 際 学 術 交 流 基 金	14,385,042	15,885,042	△ 1,500,000
寄 付 基 金	6,264,117	7,764,117	△ 1,500,000
特定資産合計	32,873,538	35,873,538	△ 3,000,000
固定資産合計	32,873,538	35,873,538	△ 3,000,000
資産合計	42,756,641	43,728,547	△ 971,906
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	131,900	110,400	21,500
前 受 金	5,707,000	5,750,602	△ 43,602
流動負債合計	5,838,900	5,861,002	△ 22,102
負債合計	5,838,900	5,861,002	△ 22,102
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	36,917,741	37,867,545	△ 949,804
正味財産合計	36,917,741	37,867,545	△ 949,804
負債及び正味財産合計	42,756,641	43,728,547	△ 971,906

正味財産増減計算書

平成31年 1月 1日から令和元年12月31日まで

（単位:円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	15,863,492	16,049,216	△ 185,724
正会員会費	7,791,352	7,936,000	△ 144,648
学生会員会費	142,000	112,000	30,000
海外会員会費	58,250	64,324	△ 6,074
団体会員会費	779,890	799,892	△ 20,002
講読会員会費	192,000	237,000	△ 45,000
維持会員会費	6,900,000	6,900,000	0
会報刊行収益	1,533,550	1,267,500	266,050
頒布収益	89,500	46,500	43,000
広告料収益	30,000	90,000	△ 60,000
著者負担金益	1,414,050	1,131,000	283,050
事業収益	26,559,531	25,012,032	1,547,499
大会運営収入	8,833,274	7,599,328	1,233,946
学術小集会運営収入	16,402,017	15,503,104	898,913
学術・技術支援委員会収入	1,324,240	1,909,600	△ 585,360
雑収益	469,483	159,204	310,279
預金利息	2,917	2,060	857
雑収益	466,566	157,144	309,422
経常収益計	44,426,056	42,487,952	1,938,104
(2) 経常費用			
会報刊行費	11,277,406	9,380,260	1,897,146
旅費交通費	265,510	222,100	43,410
通信運搬費	9,662	5,378	4,284
消耗品費	108	0	108
印刷製本費	8,831,513	7,159,585	1,671,928
編集費	1,548,014	1,434,827	113,187
学会誌送料	622,599	558,370	64,229
総会・大会費	4,738,085	7,034,960	△ 2,296,875
学術・技術支援	1,150,665	4,308,403	△ 3,157,738
学術小集会費	15,768,380	14,843,786	924,594
ＨＰ管理費	868,650	866,175	2,475
学会賞関係費	401,855	312,174	89,681
学術交流費	764,700	417,350	347,350
国際学術交流費	2,432,070	730,000	1,702,070
農薬科学研究奨励金	1,500,000	1,500,000	0
男女共同参画支援費	0	66,200	△ 66,200
選挙関連費	0	216,000	△ 216,000
事業運営費	2,151,910	2,320,054	△ 168,144
会議費	620,410	534,574	85,836
旅費交通費	1,531,500	1,785,480	△ 253,980
管理費	4,322,139	4,458,053	△ 135,914
旅費交通費	75,820	92,430	△ 16,610
通信運搬費	259,968	255,935	4,033
消耗品費	86,551	127,959	△ 41,408
事務管理費	3,262,000	3,217,000	45,000
印刷費	48,600	51,840	△ 3,240
外部会計監査費	151,874	151,874	0
雑費	437,326	561,015	△ 123,689
経常費用計	45,375,860	46,453,415	△ 1,077,555
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 949,804	△ 3,965,463	3,015,659
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 949,804	△ 3,965,463	3,015,659
2. 経常外増減の部	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 949,804	△ 3,965,463	3,015,659
一般正味財産期首残高	37,867,545	41,833,008	△ 3,965,463
一般正味財産期末残高	36,917,741	37,867,545	△ 949,804
Ⅱ　指定正味財産増減の部	0	0	0
Ⅲ　正味財産期末残高	36,917,741	37,867,545	△ 949,804

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

消費税等の会計処理は税込み方式によっている.

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は, 次のとおりである.

(単位:円)

科　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
積立調整基金口	12,224,379	0	0	12,224,379
国際学術交流基金	15,885,042	0	1,500,000	14,385,042
寄付基金口	7,764,117	0	1,500,000	6,264,117
合　計	35,873,538	0	3,000,000	32,873,538

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は, 次のとおりである.

(単位:円)

科　目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
特定資産				
積立調整基金口	12,224,379	(0)	(12,224,379)	(0)
国際学術交流基金	14,385,042	(0)	(14,385,042)	(0)
寄付基金口	6,264,117	(0)	(6,264,117)	(0)
合　計	32,873,538	(0)	(32,873,538)	(0)

財産目録

令和元年12月31日現在

日本農薬学会　　（単位:円）

貸借対照表科目		場所・物量等	金　額
（流動資産）			
	現金	手元保管	143,785
	預金	普通預金	7,490,914
		三井住友銀行白山支店	3,190,900
		ジャパンネット銀行	3,054,750
		SMBC信託銀行	1,245,264
		振替貯金	731,904
		ゆうちょ銀行	731,904
	未収金		666,000
	仮払金		850,500
	総会・大会		850,000
	農薬	デポジット料金	500
流動資産合計			9,883,103
（固定資産）			
特定資産			
	積立調整基金		12,224,379
	三井住友銀行白山支店定期		12,224,379
	国際学術交流基金		14,385,042
	三井住友銀行白山支店定期		12,885,042
	ジャパンネット銀行定期		1,500,000
	寄付基金		6,264,117
	三井住友銀行白山支店定期		5,964,117
	SMBC信託銀行		300,000
固定資産合計			32,873,538
資産合計			42,756,641
（流動負債）			
	未払金		131,900
	前受金		5,707,000
	正会員		5,640,000
	学生会員		32,000
	海外会員		25,000
	団体会員		10,000
流動負債合計			5,838,900
負債合計			5,838,900
正味財産			36,917,741

III　会計監査報告

令和元年度日本農薬学会の事業報告および決算について監査の結果，的確であることを認めます．

令和2年2月5日

監事　　内田　又左衛門　印

佐藤　　幸治　　印

IV　議事

1. 令和元年度事業報告および決算の承認

2. 令和2年度事業計画および収支予算（案）の承認

1）会誌の発行：日本農薬学会誌　第45巻，第1号～第2号
Journal of Pesticide Science（JPS）誌
第45巻，第1号～第4号

2）第45回大会の開催：R2.3.8～10, 大阪府立大学（大阪府堺市）

3）日本農薬学会賞および論文賞の授与

4）専門委員会などの開催

（1）　編集委員会
（2）　常任編集委員会
（3）　日本農薬学会賞受賞者選考委員会
（4）　財務委員会
（5）　第46回大会組織委員会
（6）　将来計画委員会
（7）　学術・技術支援委員会
（8）　農薬科学研究奨励金交付者審査会議（一次および二次）
（9）　選挙管理委員会

5）セミナーの開催

（1）　残留農薬分析セミナー 2020を開催予定（2回程度，2か所で開催（詳細未定））
（2）　農薬の安全性等に関する講師派遣（予定）

6）学術小集会，講演会等の開催

（1）　農薬残留分析研究会：第43回農薬残留分析研究会をホテルグランヴェール岐山（岐阜市）において開催.（R2.11.5～6）
（2）　農薬製剤・施用法研究会：第40回農薬製剤・施用法シンポジウムをはまぎんホール　ヴィアマーレ（神奈川県横浜市）において開催.（R2.10.15～16）
（3）　農薬環境科学研究会：第38回農薬環境科学研究会をアリストンホテル神戸（兵庫県神戸市）において開催.（R2.10.29～30）
（4）　農薬生物活性研究会：第37回農薬生物活性研究会シンポジウムを東京農業大学校友会館グリーンアカデミーホール（東京都世田谷区）において開催.（R2.4.24）
（5）　農薬デザイン研究会：第35回農薬デザイン研究会をメルパルク京都（京都市）において開催.（R2.10.30）
（6）　農薬レギュラトリーサイエンス研究会：第28回シンポジウムを北とぴあ（東京都北区）において開催.（R2.12.4）
（7）　農薬バイオサイエンス研究会：第18回農薬バイオサイエンス研究会を大阪府立大学（大阪府堺市）において開催.（第45回大会との共催）（R2.3.10），第19回研究会を東京大学（東京都文京区）において開催.（開催時期未定）

7）農薬科学研究奨励金の交付

（1）　泉津　弘佑 氏（滋賀県立大学）：新規殺菌剤ターゲットとして見出したタンパク質プレニル化機構の中心因子Geranylgeranyl transferaseの分子遺伝学的研究
（2）　宮崎　翔 氏（慶應義塾大学）：ワラビー萎縮症の病原物質の同定
（3）　太田　広人 氏（崇城大学）：昆虫チラミン受容体に対する殺虫性精油のアロステリック様作用に関する研究

8）令和2年度収支予算（案）

収支予算案

令和 2年 1月 1日から令和 2年12月31日まで

科　　目	令和2年予算額	令和元年予算額	増減
Ⅰ　事業活動収支の部			
1．事業活動収入			
会 費 収 入	15,877,000	16,160,000	△ 283,000
正会員会費収入	7,800,000	8,000,000	△ 200,000
学生会員 収入	145,000	130,000	15,000
海外会 員 収入	60,000	80,000	△ 20,000
団 体 会 員	770,000	800,000	△ 30,000
購読会員 収入	202,000	250,000	△ 48,000
維持会 費 収入	6,900,000	6,900,000	0
会報刊 行 収入	1,467,000	1,220,000	247,000
頒 布 収 入	37,000	60,000	△ 23,000
広 告 料 収 入	30,000	60,000	△ 30,000
著者負担金収入	1,400,000	1,100,000	300,000
事 業 収 入	26,738,000	21,002,000	5,736,000
大 会 運 営	10,521,000	5,801,000	4,720,000
学術小集会運営	14,997,000	14,081,000	916,000
学術・技術支援	1,220,000	1,120,000	100,000
雑　収　入	143,000	512,000	△ 369,000
預金利 息 収入	3,000	2,000	1,000
雑　収　入	140,000	510,000	△ 370,000
事業活動収入計	44,225,000	38,894,000	5,331,000
2．事業活動支出			
会報刊行費支出	10,270,000	9,810,000	460,000
旅費交通費支出	300,000	300,000	0
通信運搬費支出	10,000	10,000	0
消耗品 費 支出	10,000	50,000	△ 40,000
印刷製本費支出	7,800,000	7,000,000	800,000
編 集 費 支 出	1,500,000	1,800,000	△ 300,000
学会誌送料支出	650,000	650,000	0
総会・大会支出	8,650,000	5,801,000	2,849,000
学術・技術支援	1,270,000	1,120,000	150,000
学術小集会支出	14,800,000	14,955,956	△ 155,956
HP管理費支出	1,300,000	900,000	400,000
学会賞関係支出	500,000	400,000	100,000
学術交流費支出	300,000	800,000	△ 500,000
国際学術交流費	1,000,000	2,270,000	△ 1,270,000
農薬研究奨支出	1,500,000	1,500,000	0
男女共同参画費	150,000	150,000	0
選挙管理支出	220,000	0	220,000
事業運営費支出	1,950,000	2,000,000	△ 50,000
会 議 費 支 出	550,000	500,000	50,000
旅費交通費支出	1,400,000	1,500,000	△ 100,000
管 理 費 支 出	4,425,000	4,312,000	113,000
旅費交通費支出	50,000	90,000	△ 40,000
通信運搬費支出	300,000	300,000	0
消耗品 費 支出	150,000	150,000	0
事務管理費支出	3,265,000	3,262,000	3,000
印 刷 費 支 出	50,000	50,000	0
外部監査管理費	160,000	160,000	0
雑　支　出	450,000	300,000	150,000
事業活動支出計	46,335,000	44,018,956	2,316,044
事業活動収支差額	△ 2,110,000	△ 5,124,956	3,014,956
Ⅱ　投資活動収支の部			
1．投資活動収入			
特定資産取崩収入	2,500,000	5,000,000	△ 2,500,000
積立調整基金取崩収入	0	1,500,000	△ 1,500,000
国際交流基金取崩収入	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000
寄付基金取崩収入	1,500,000	1,500,000	0
投資活動収入計	2,500,000	5,000,000	△ 2,500,000
2．投資活動支出			0
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	2,500,000	5,000,000	△ 2,500,000
当期収支差額	390,000	△ 124,956	514,956
前期繰越収支差額	4,044,203	1,994,007	2,050,196
次期繰越収支差額	4,434,203	1,869,051	2,565,152

3. 日本農薬学会会則の改定

1）会則第14条（平成23年5月28日改定）の改定

【理由】

内部監査により指摘を受けたため改定を行なった．

改定前	改定後
（平成23年5月28日改定） 日本農薬学会会則 第14条 4　監事は，本会の会計の監査にあたる．	（令和2年3月8日改定） 日本農薬学会会則 第14条 4　監事は，本会の業務と会計の監査にあたる．

2）会則第37条（平成23年5月28日改定）の改定

【理由】

内部監査により指摘を受けたため改定を行なった．

改定前	改定後
（平成23年5月28日改定） 日本農薬学会会則 第37条 専門委員会に委員長をおき，当該会務を分掌する．	（令和2年3月8日改定） 日本農薬学会会則 第37条 専門委員会に委員長をおき，当該会務を分掌する．専門委員会委員長は会長がこれを指名し，常任評議員会の承認を経て委嘱する．委員長の任期は2年とする．

4. 終身会員の推薦

1）終身会員の推薦

会則第7条2項により，岡田　至 氏，実光　穣 氏，堀正大 氏，吉田　茂男 氏を終身会員に推薦し，評議員会において承認された．

5. 日本農薬学会第46回大会（令和3年）の報告

第46回大会を令和3年3月8～10日に東京農工大学（東京都府中市）において開催することが評議員会において承認された．

6. その他

日本農薬学会第45回大会報告

日本農薬学会第45回大会は，令和2年3月8日より3日間の会期で大阪府立大学にて開催予定でしたが，国内における新型コロナウイルスの感染機会削減・拡散防止のため中止となりました．しかし，大会中止が非常事態によるものであることに鑑みて，大会は「みなし開催」とし，一般講演とシンポジウムの発表は講演要旨集の発行により行われたこととします．

大会の会計は以下の通りとなりました．ご協力およびご支援頂きました皆様に厚く御礼申し上げます．

日本農薬学会第45回大会組織委員会委員長
太田　大策（大阪府立大学）

日本農薬学会第45回大会　収支報告書

単位：円

科　　目	決　算　額	備　　考	
【収入の部】			
大会参加費	2,719,000	有料参加者数	
		正会員	226
		学生会員	48
		非会員	59
		合計	333
講演要旨集頒布料	24,000	8冊	
広告料・展示料	1,120,000	広告26件	
収入合計	3,863,000		
【支出の部】			
会議費	1,056,650	大会システム費用，会場予約金	
旅費・交通費	9,000	運営委員旅費	
キャンセル料	2,353,668	弁当キャンセル料，ホテルキャンセル料，返金手数料	
印刷費	239,500	講演要旨集印刷費	
通信運搬費	4,276	郵送料，切手代，振込手数料	
雑費	64,564	看板作成費，コピー代，残高証明書発行手数料ほか	
支出合計	3,727,658		
収支差額	135,342		

会　員　動　静

（令和2年4月1日～令和2年7月10日）

入会

正会員

管原　亮平　　安河内英二　　浜坂　康貴　　本田　　理
生田　英二　　杉浦　正昭　　彌富丈一郎　　山木　義賢

（受付順）

退会

正会員

井上　大輔　　寛座　俊孝　　黒須　和秋　　大谷　　卓
佐塚　直孝　　小西　克彦　　新井　俊介　　草苅　　啓

学生会員

神野　公哉　　藤田　忠文

団体会員

日産化学（株）農林水産省横浜植物防疫所

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛，後援する会議等

2020年

9月

（開催中止）15日（火）～18日（金）　アジア植物病理学会
主　催：日本植物病理学会
ＵＲＬ：https://acpp2020.org

18日（金）　農薬生物活性シンポジウム（オンライン開催）
主　催：日本農薬学会，農薬生物活性研究会
※農薬生物活性研究会では，新型コロナウイルス感染の状況を踏まえ，延期としておりました第37回農薬シンポジウムの開催を中止する判断に至りました．一方，予定の講演者の了解の得られる範囲でのオンライン開催の試行を検討しております．現時点では9月18日（金）の開催を予定しておりますので日程の確保をお願いいたします．詳細につきましては学会ホームページ等でアナウンスさせていただきます．
ＵＲＬ：http://pssj2.jp/committee/bioactivity.html

（開催中止）24日（木）　第35回報農会シンポジウム
主　催：公益財団法人　報農会
ＵＲＬ：http://www.honokai.org

10月

（開催延期）15日（木）～16日（金）第40回農薬製剤・施用法研究会
主　催：日本農薬学会，農薬製剤・施用法研究会
※第40回シンポジウムは，新型コロナウイルス（COVID-19）拡散の影響のため，2021年に延期することを決定しました．2021年開催の内容が決まりましたら，改めて掲載いたします．
ＵＲＬ：http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai40.html

（開催延期）29日（木）～30日（金）　第38回農薬環境科学研究会
主　催：日本農薬学会，農薬環境科学研究会
※新型コロナウイルス拡散の影響のため，2021年に延期することを決定しました．2021年開催の内容につきましては改めてお知らせします．
ＵＲＬ：http://pssj2.jp/committee/environment.html

（開催延期）30日（金）　第35回農薬デザイン研究会
主　催：日本農薬学会，農薬デザイン研究会
※新型コロナウイルス拡散の影響のため，2021年に延期することを決定しました．2021年開催の内容につきましては改めてお知らせします．
ＵＲＬ：http://pssj2.jp/committee/design.html

11月

5日（木）～6日（金）　第43回農薬残留分析研究会
主　催：日本農薬学会，農薬残留分析研究会
会　場：ホテルグランヴェール岐山［〒500–8875　岐阜市柳ヶ瀬通6–14］
ＵＲＬ：http://pssj2.jp/committee/residue.html
※現段階では通常開催を予定していますが，状況によってはWeb開催に変更する可能性があります．

（開催延期）20日（金）　第19回農薬バイオサイエンス研究会（植物化学研究会と共催）
主　催：植物化学研究会，日本農薬学会，農薬バイオサイエンス研究会
※新型コロナウイルス拡散の影響のため，2021年に延期することを決定しました．2021年開催の内容につきましては改めてお知らせします．
ＵＲＬ：http://pssj2.jp/committee/bioscience.html

12月

（開催延期）24日（金）　第28回農薬レギュラトリーサイエンス研究会
主　催：日本農薬学会，農薬レギュラトリーサイエンス研究会
※「北とぴあつつじホール（東京都北区）」において開催予定でしたが，新型コロナウィルス感染拡大防止のため，2021年に延期します．
ＵＲＬ：http://pssj2.jp/committee/regulatory.html

2021年

3月

8日(月)～10日(水) 日本農薬学会第46回大会

主　催：日本農薬学会

会　場：東京農工大学［〒183–8509東京都府中市幸町3–5–8］

ＵＲＬ：http://pssj2.jp/

学会主催会議などの詳細

残留農薬分析セミナー 2020年度　開催中止のお知らせ

例年，好評を頂いております残留農薬分析セミナーですが，新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み，例年通りの実技実習を伴うセミナーは実験室という制限された空間で行うため，三密状態の回避が困難なことから，参加者および関係者の皆様の健康や安全に最大限配慮した結果，今年度は開催しないことといたしました．当セミナーへの参加をお考えいただいていた皆様には，残念なお知らせとなり，誠に申し訳ございませんが，ご理解の程，何卒よろしくお願い申し上げます．

第43回農薬残留分析研究会　開催案内

※本年度の参加申し込みの受け付けを開始いたします．
現段階では通常開催を予定していますが，状況によってはWeb開催に変更する可能性があります．
最終決定は，参加申し込みを確認しながら8月末に発表させていただきますので，なるべく早くお申し込みをお願いいたします．

主催：日本農薬学会，農薬残留分析研究会

日時：令和2年11月5日(木)～11月6日(金)

場所：ホテルグランヴェール岐山
〒500–8875　岐阜県岐阜市柳ケ瀬通6丁目14番地
https://grandvert.com/access/

交通：JR・名鉄岐阜駅前よりタクシーで約5分
JR岐阜駅北口右側9番バス乗り場，名鉄岐阜駅前バス停5番乗り場（駅の向かい側）より
C70岐阜大学または岐阜大学病院行きに乗車（所要7～9分)⇒柳ヶ瀬西口下車，徒歩2分

参加費等（事前登録料金，当日参加費）：

参加募集人数：150名（ソーシャルディスタンス確保のため，定員に達しましたらホームページでお知らせいたします）

研究会参加費：会員5,000円，非会員8,000円，学生2,000円

情報交換会：今年度は実施いたしません．

エクスカーション：今年度は実施いたしません．

＊「精度管理に関するセミナー」に利用するために，参加申し込みと同時にアンケートのご協力をお願いいたします．

「プログラム」

11月5日(木)：初日

13:00～13:10　開会挨拶：農薬残留分析研究会委員長
坂　真智子

シンポジウム「農薬残留分析に係る最近の話題」

13:10～13:50　「使用者暴露調査の分析実務について」 株式会社エスコ・古川雅也

13:50～14:30　「測定における不確かさ入門」
国立研究開発法人産業技術総合研究所・田中秀幸

14:30～14:40　休憩

14:40～15:20　「食品分析実施試験所における品質保証への国際的な要求」
国立医薬品食品衛生研究所・渡邉敬浩

15:20～15:30　休憩

15:30～16:50　精度管理に関するセミナー
「FAPAS技能試験について」（仮）
株式会社セントラル科学貿易
「技能試験（残留農薬検査）について」（仮）
一般財団法人食品薬品安全センター・渡辺卓穂
「農薬残留分析における精度管理～アンケートを踏まえて～」（仮）
第43回実行委員会

16:50～17:00　休憩

17:00～17:50　特別講演
「音響振動法を用いた「おいしさ」の指標化への試み～カキのサクサク感の定量化と保持技術の開発～」（仮）
岐阜県農業技術センター・鈴木哲也

11月6日(金)：2日目

9:30～11:50　ポスターセッション，企業展示

12:00　閉会

［問い合わせ先］

第43回実行委員会：
幹事長石坂眞澄（農業・食品産業技術総合研究機構）
TEL: 029–838–7351　E-mail: masumi_ishizaka@affrc.go.jp

「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」のご案内

日本農薬学会では，精度の高い残留農薬分析を実施する上で特に配慮すべき事項を「Q & A」形式に取りまとめた「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」を出版しています． 2003年に初版を発行以来，好評を博して改訂を重ねてまいりましたが，最新の改訂4版では，前3版出版以降の農薬登録制度の動向を反映させ，最新の科学的知見を盛り込むよう全文の見直しを行ったうえで，初学者の方にも，より読みやすくなるよう心がけて内容を再整理しました．また，携行性を高めるために軽量化を図りました．前版と同様に残留農薬分析の基本やノウハウを得るための参考書として，さらに，食の安全に関心をお持ちの幅広い方々に対しても，農薬の規制についての理解の一助となるようお役立て頂けると幸いです．定価は3,000円です（送料別）．

購入申込み方法：

メールまたはFAXにて，以下の日本農薬学会事務局に氏名，所属，メールアドレス，電話番号，送付先住所，購入冊数（FAX申込みの場合はFAX番号）等をご連絡下さい．また，メール等の件名には「問答あれこれ購入」と記入して下さい．折り返し請求書（送料を含む）を同封し発送しますので，振込みをお願いします．詳細は，学会ホームページもご参照ください．

日本農薬学会事務局：

〒114–0015　東京都北区中里2丁目28番10号　日本植物防疫協会内
FAX: 03–5980–0282
MAIL: nouyaku@pssj2.jp
学会HP: http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html

※平成30年の農薬取締法改正に伴い更新が必要となった記事を新旧対照表として取りまとめました（令和2年4月1日適用分対応）．学会ホームページ上（http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html）で公開していますので，ご参照ください．

【予告】農薬科学研究奨励金

日本農薬学会では，農薬科学研究の支援を目的として，特に競争的資金の獲得が難しい研究課題や研究者の方々にも利用して頂けるよう農薬科学研究奨励金の交付を行っています．今年度も令和3年度交付分（1件上限50万円，総額150万円を予定）の募集を9～11月に予定していますので，応募をお考えの皆様には是非前もってご準備下さい．詳細な応募要件等は，後日正式に決定次第，ご案内いたします．

過去の採択課題：http://pssj2.jp/inside/past_grant.html

次期役員候補者の推薦受付について

本会役員選出規定に基づき，正会員，名誉会員，終身会員，学生会員は次期（令和3年4月1日～令和5年3月31日）の役員候補者を推薦することができます．推薦する場合は，役員選出規定（特に該当する部分を以下に抜粋しています）をご参照のうえ，候補者名を令和2年9月20日までに本会選挙管理委員会に文書で届けてください．届出文書様式は任意としますが，必ず推薦者本人の署名捺印を必要とします．なお，会則および規定の全文は農薬誌第45巻2号および学会ホームページにて掲載していますので，併せてご参照ください．

推薦に際して候補者が会員かどうかをお知りになりたい場合，ホームページから会員名簿を閲覧することができますので，ご利用ください．なお，正確を期したい場合は学会事務局までお問い合わせください．

送付・問い合わせ先：〒114–0015　東京都北区中里2–28–10
日本植物防疫協会内
日本農薬学会選挙管理委員会
TEL: 03–5980–0281

学会ホームページ：http://pssj2.jp

会　　則（抜粋）

第15条　会長，副会長1名，評議員70名および監事は，正会員，名誉会員，終身会員，学生会員の互選による．
第17条　役員の任期は，2年とする．ただし，会長は重任することができない．

役員選出規定（抜粋）

4. 会則第15条および本規定に定める会員とは，役員任期満了の前年の5月31日現在の会員とする．
5. 会員は10名以上の連署により，会長1名，副会長1名，監事2名以内の候補者を推薦することができる．また，会員は評議員候補者2名以内を推薦することができる．

令和3年・4年度日本農薬学会役員選挙について

令和2年10月に令和3年・4年度日本農薬学会役員選挙が実施される予定です．インターネットWebシステムによる投票のみとなります．なお，本会規定により，本年5月31日の時点で今年度の会費を納入していない方には選挙権・被選挙権が認められませんので，ご留意ください．

日本農薬学会選挙管理委員会
（学会事務局）
〒114–0015　東京都北区中里2–28–10
日本植物防疫協会内
日本農薬学会選挙管理委員会
TEL: 03–5980–0281
FAX: 03–5980–0282
E-mail: nouyaku@pssj2.jp

日本農薬学会第46回大会のご案内

日本農薬学会第46回大会を，2021（令和3）年3月8日（月）から3月10日（水）までの3日間にわたって東京都府中市（府中市立府中の森芸術劇場および東京農工大学農学部）にて開催いたします．本会会員ならびにご関心をお持ちの皆様には，奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます．植物防疫関係2学会（日本植物病理学会，日本応用動物昆虫学会）および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員の方は，例年通り，本学会会員扱いとなりますので，お近くの学会員の方にも参加・発表をお誘いいただければ幸いです．また，非会員の方のご参加も歓迎いたします．

なお，今後のコロナウイルス感染状況により，大会実施形式，実施計画を変更する可能性があります．2020年9月ごろの状況を鑑みて，11月初旬迄には詳細を決定する予定です．

大会関係の記事は，PSSJ News Letterにてご案内致しますが，詳細は，大会ホームページで随時お知らせいたしますので，ご確認下さい．

I.　開催場所および日時

・2021年3月8日（月）：総会，学会賞授賞式，受賞講演，特別講演，懇親会，受賞祝賀会
『府中市立　府中の森芸術劇場　ふるさとホールおよび平成の間』
http://www.fuchu-cpf.or.jp/theater/1000160/1000184.html

・2021年3月9日（火）～10日（水）：一般講演，シンポジウム，ランチョンセミナー，展示会
『東京農工大学　農学部（府中キャンパス）　第1講義棟および2号館』
https://www.tuat.ac.jp/outline/overview/access/fuchu/campus_map/

・アクセス
府中の森芸術劇場
京王線「東府中駅（KO23）」北口から徒歩5分
東京農工大学農学部（府中キャンパス）
京王線「府中駅（KO24）」3番バス乗場からから京王バス（寺91系統）「（明星学苑経由）国分寺駅南口行」約5分，「晴見町（東京農工大学前）」バス停下車すぐ
JR中央線「国分寺駅（JC16）」下車，南口2番バス乗場から，京王バス（寺91系統）「（明星学苑経由）府中駅行」約10分，「晴見町（東京農工大学前）」バス停下車すぐ
JR武蔵野線「北府中駅（JM34）」から徒歩12分
宿泊される方は，府中駅，東府中駅，新宿駅周辺が便利です

II.　プログラム（案）
令和3（2021）年3月8日（月）～10日（水）

月・日	午前	昼	午後	会場
3月8日（月）	総会 授賞式 受賞講演		受賞講演 特別講演 懇親会・受賞祝賀会	府中市立　府中の森芸術劇場
3月9日（火）	一般講演	ランチョンセミナー	一般講演	東京農工大学　農学部 （府中キャンパス）
3月10日（水）	シンポジウム	ランチョンセミナー	シンポジウム	東京農工大学　農学部 （府中キャンパス）

常任評議員会，評議員会および編集委員会は，3月7日（日）に東京農工大学　農学部（府中キャンパス）で開催します．詳細については別途ご案内します．

日本農薬学会第46回大会における広告，展示およびランチョンセミナー募集のご案内

日本農薬学会第46回大会を下記の日程・会場で開催いたします．つきましては，講演要旨集への広告の掲載，展示会への出展，およびランチョンセミナーの開催等でご支援を賜りたいと考えております．本大会の成功のために，何卒ご協力を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます．

日　程：令和3年3月9日（火）および3月10日（水）
会　場：東京農工大学　農学部（府中キャンパス）

〈申し込み・問い合わせ先〉
日本農薬学会第46回大会組織委員会委員長
東京農工大学　農学研究院　有江　力
TEL: 042–367–5692
E-mail: arie@cc.tuat.ac.jp

発行所：日本農薬学会
〒114–0015　東京都北区中里2–28–10
一般社団法人日本植物防疫協会内
TEL: 03（5980）0281　　FAX: 03（5980）0282
E-mail: nouyaku@pssj2.jp